
同窓会だより

昭和47年10月20日

秋涼の候となりました。会員の皆様には益々ご清祥のこと、お慶び申し上げます。

月日の流れは早いもので、皆様より格別のご支援ご協力を賜わり、いとも盛大に母校創立五十周年式典及び記念の諸事業が行なわれてから丸二ヶ年経過いたしました。

よって茲に同窓会本部の近況と知り得た若干の消息をご報告申しあげて、ご無沙汰のお詫びといたします。

何卒今後とも相変りませず、よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健康とご多幸を切にお祈りいたします。

岐阜県立本巣高等学校同窓会本部事務局

岐阜県本巣郡糸貫町仏生寺
郵便番号 501-04 電話 <0583> 24-1201 番

一、本部役員の改選について

去る八月十九日揖斐郡大野町中央公民館で開催の本年度総会に於いて、会則第七条による役員改選が行なわれた結果主要役員の陣容は次のとおりとなりました。(敬称省略)

○印は新任

顧問 安藤 清(中一) ○吉田健三(中二)

会長 ○竹中重之(中七)

副会長 ○八代春雄(中七) 石川絹子(女一)

高橋重信(中一二) ○井深 透(中一)

土屋淑子(女四)

監事 鷺見 茂(中五) 翠 静(女四)

梅田 茂(中二二) 伊藤民子(女二三)

〔註〕①新会長竹中重之氏はすでにご承知の如く吉田前会長のもとで長く副会長をされ、元県議、現在は岐阜県経済連会長として公務極めて多端であります、会員の要望に応え今回枉げて会長就任をご承諾いただきました。

なお、副会長五氏の互選により八代春雄氏が代表副会長となられ、井深透氏は揖斐郡支部長を兼任、各回理事は全員留任と決定いたしました。

②前会長吉田健三氏は昭和三十年八月会長ご就任以来十七年の長きに亘り、高邁な識見と誠実なお人柄をもって本会並びに母校発展のた

め多大の寄与をいただきました。特にご在任中には母校創立四十周年及び五十周年の記念事業が行なわれ格別のご尽力を賜りましたので、このたびご退任に当り偉大なご功績に対し感謝状と記念品を贈呈いたしました。なお今後とも前掲の如く「顧問」としてお力添えをいただくことになっております。

二、五十周年記念奨学制度の実施について

昨年一月各位のお手許にお届けいたしました「五十周年記念事業報告書」第九頁に予報のとおり、昭和四十六年四月新学期より実施しております。基金として二五〇万円を母校に寄贈し、その利子を以て運営され、現在受給中の生徒は四名であります。

三、母校後援会の結成について

母校教育の推進に力を貸すため、同窓会・PTAを母体とする後援会が最近結成され、会長は同窓会長竹中重之氏、副会長にはPTA会長寺田巖及び同窓会副会長八代春雄の両氏が選任せられ、以下役員は同窓会とPTAより同数を以て構成し、同窓会側の役員は次の諸氏であります。

理事 石川絹子(女一) 高橋重信(中一二)

井深 透(中一) 土屋淑子(女四)

林 秀一(中二) 翠 正明(中一三)

書記||高木つた子(女一八) 会計||市田茂和(高商七)

監査委員||梅田茂(中二二)

去る六月以降回数役員会が開かれ、事業並びに資金計画が審議されました。同窓会としては五十周年募金後まだ日が浅いので寄附金の募集は当面見合わせ、百五十万円を無利子で昭和五十年三月末まで後援会へ融資することになりました。しかし、母校後輩のため、いづれ御無理をお願いすることになろうかと存じますので、その節は何分よろしくお願ひ申しあげます。

四、格技場及び生徒昇降口の新築竣工

母校本館東端(体育館の北・旧本中時代の博物教室と化学実験室跡)に階上を格技場(柔剣道場)とし、階下を生徒昇降口・更衣室・購買部室とする上下各三五〇㎡の鉄骨建て一棟が去る九月末竣工しました。

従って創立以来五十余年の風雪に耐え、母校発展の歴史を秘めた老残の旧生徒控室・昇降口はその使命を果たし、近く取毀わされ、その跡にはテニスコートが作られる予定で

あります。

五、恩師・会員の消息

(1)五十周年記念事業当時の学校長松尾克美先生(中一二)は昨年三月末の定期異動で新設各務原高等学校の初代校長としてご栄転になり、若さと敏腕で同校の創業にご活躍中であります。また、「五十年史」の主筆者服部竹風先生も同時に定年ご退職になりましたが、ご専門の書道研究にご精進の傍ら自宅で後進の指導に当たっておられます。

松尾先生後任の現校長は玉信一先生(前任は大垣農高校長)で、ご着任以来水道改良工事・内庭の造園・格技場建設など教育環境の整備に特にお骨折りにいただいております。

(2)ユニークな作品「長良川」で一昨年度直木賞を獲得された作家豊田穰氏(中一三)は昨秋十一月二十二日岐阜高専の招きで同校文化祭にご出席の序を以って母校を訪問されました。早速学校の要請を容れて、体育館で全校生徒に対し本中在学中の想い出と人生観を織りませ、静かに而も情熱をこめて約一時間にわたり講演され、後輩に深い感銘を与えられました。

(3) 白き杖を手に、はるばる遠隔の地より五十周年祝賀式典にご参列いただいた鹿島源助先生は御年九十才。千葉県富津市大堀八番地にて、園芸を趣味として老を養っておられ、本年四月母校へ万葉植物三十余种をご寄贈下さいました。益々ご長命の程祈念してやみません。

(4) 京浜支部長川村福二氏(中一・日本坩堝社長)は本年四月藍綬褒章をお受けになりました。ご同慶の至りに存じます。

(5) かねてより身体不自由であられる井上ふみ先生(女一)は引きつづき糸貫町郡府のお宅でご養生なさっておられます。また、名古屋支部長竹中忠夫氏(中一・中京大教授)は去る九月下旬下半身不随にて中京病院に入院されましたが、十月十六日愛知県癌センター(名古屋市千種区田代鹿子殿)へ移られてご加療中であります。おふたりが一日も早く全快されますようお祈りする次第であります。

(6) 去る十月八日(日曜日)母校運動会が行われ、旧師高橋三三先生は昨年同様ご来校あり、終日熱心に御観覧下さいました。先生は本年喜寿を迎えられましたが、昔に変らずお元氣であられるのはほんとうに嬉しいことです。

(7) 母校運動場の北の大公孫樹群のすぐ西脇に天空を衝いてそびえ立っていた校内随一の巨木ヒマラヤ杉は去る九月の台風二〇号で惜しくも倒れました。往年の伊勢湾台風で僚木が皆やられ、ヒマラヤ杉としてはこの一本のみが残っていたのですが、遂に雄姿を校庭から消しました。(昭和三十五年度版「会員名簿」お持ちのお方は二七四頁の故川島宮九郎先生の回想記「ヒマラヤ杉に想う」をご一読下さい)

恩師訃報

最近次の諸先生がご逝去になりました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申しあげます。

清水 準一先生(旧本中・柔道)

石原 宗造先生(旧本中・歴史)

石川 実先生(旧本中・英語)

可知 茂先生(旧本女・美術)

南谷政兵衛先生(旧本中・国漢)

樋田 善一先生(旧本中・国漢)

(恩師・会員の消息、ニュース等ご存知のお方は、本部までお知らせ下さいますようお願い申し上げます。)

竹中忠夫氏（消息欄(5)参照）は薬石効なく、十月二十日急逝されました。同窓会に対する生前のご尽力を謝し、謹んでお悔み申しあげます。

なおご遺族のご住所は次の通りです。

一、名古屋市千種区鍋屋上野町九五七の一

未亡人 竹 中 きぬ 様

二、（郷里）岐阜県本巢郡本巢町山口

ご尊父 竹 中 弥 六 様